

シリーズ8

「流れ」でおさえよう！

さて、今回の「『流れ』でおさえよう！」は「大正時代」です。

大正時代は15年間と短いですが、「大正デモクラシー」という言葉に象徴されるように労働運動や社会主義運動が発展しました。全国水平社が誕生したり、日本最初の小作人の組合も誕生しました。また、女性の社会進出をめざす運動も進んでいきました。経済的には、第一次世界大戦後期に経済が活況を呈しますが、その後発生した戦後恐慌や震災恐慌、金融恐慌などが相次ぎ、倒産する企業や失業者が増えていきました。一方、5大銀行が形成されていく時代でもありました。

国際的には、第一次世界大戦後には、国際連盟が設立され、ヴェルサイユ体制やワシントン体制など国際協調が展開された時期でもありました。

第11回 大正時代

<国際協調の変遷>

第1次世界大戦

1914～18年

→ ヴェルサイユ体制

1919年～

→ ワシントン体制

1921年～

1919年に第一次世界大戦の戦後処理をテーマに開催されたのがパリ講和会議でした。ドイツは海外領土を失い、天文学的とも言える賠償金を課せられてしまいます。日本がドイツから奪った利権もこの時認められます。締結された条約がヴェルサイユ条約で、この条約に基づいて展開された国際協調の体制がヴェルサイユ体制と呼ばれました。

この会議の日本の全権は誰でしたか？ 二人答えてください。

西園寺公望、牧野伸顯でしたね。この時の内閣は原敬内閣です。

この会議の後、史上初めての国際平和組織である国際連盟が、アメリカ大統領ウィルソン

の提案で発足しました。日本はアジアで唯一の常任理事国になり、国際政治をリードしていくことになりました。

1921 年には、**アメリカ大統領ハーディング**の提案で、ワシントン会議が開催されました。**この会議に参加した日本の全権は誰でしょうか？** 3 人の名前を答えられますか？

加藤友三郎海軍大臣、幣原喜重郎駐米大使、徳川家達貴族院議長の 3 人でしたね。

この会議は、海軍軍縮と太平洋及び極東問題を審議し、各国の権益を相互承認しようとしたものですが、東アジアにおいて膨張してきた日本をターゲットにして、日本の力をおさえこもうとした会議でしたね。

この会議で締結された条約は 3 つでした。順番に見ていきますと・・・

まず最初が**4 力国条約**（英米日仏）です。**太平洋**の島々の領土・権益を相互に尊重しようというものでした。そして、**1902 年にはじめて締結された協約が廃棄されました。それは何ですか？**

日英同盟協約でしたね。アメリカにとって日英同盟の廃棄は、アジア進出のためにも最大の悲願だったと言えます。

2 つめの条約が、**9 力国条約**（英米日仏伊蘭・ベルギー・ポルトガル・中国）です。これは**中国**の主権尊重、機会均等、門戸開放をかかげたものでした。**この結果、日米の間で 1917 年に締結された協定が破棄されることになりました。それは、何でしたか？**

石井・ランシング協定でしたね。また、山東省の旧ドイツ利権を中国に返還することになります。

最後の 3 つめが**ワシントン海軍軍縮条約**（英米日仏伊の 5 力国）でした。**主力艦の保有量を制限**して、米：英：日＝5：5：3 の保有比率になりました。さらに今後 10 年間主力艦の建造が禁止されます。

この 3 つの条約で保たれた**国際協調体制**をワシントン体制と呼びます。日本は、これ以降、英米との武力的対立を回避しつつ、中国へ内政不干渉路線を歩むことになります。それを推進したのが、**憲政会・立憲民政党の外務大臣幣原喜重郎**でしたね。それに対して**立憲政友会の強硬外交・積極外交**がぶつかっていくことになります。

<朝鮮の統治政策の変遷>

武断統治

1910 ～ 19 年

→

文化統治

1919 ～ 31 年

→

兵站基地化政策

1931 ～ 45 年

韓国併合の後、**憲兵警察制度**をとり、朝鮮人の政治活動を禁止し、さらに土地調査事業を進めたのが武断統治の時代です。

1919 年の**三・一独立運動**以降は、憲兵警察制度を廃止し、朝鮮人の官吏登用を一部認めるなど文治統治に転換しました。また、日本国内の米需要に対応するために産米増殖計画を実施しました。

1937 に日中戦争が勃発し、長期化したため総力戦体制へ組み込みを図る兵站基地化政策がとられました。朝鮮半島は総力戦遂行のための後方基地とされ、朝鮮の人々を総力戦を担う皇民とする同化政策が実施されていくことになります。

<大正時代の労働組合の流れ>

友愛会 → 大日本労働総同盟友愛会 → 日本労働総同盟
1912 年 1919 年 1921 年

1910 年の大逆事件の後、社会主義や労働運動は「冬の時代」に突入しました。そのような中で、友愛会が**鈴木文治**が中心となって結成され、労働組合育成と労働者の地位向上を図っていきます。

大日本労働総同盟友愛会は労働組合の形態が整備され、労働組合の公認、8時間労働制、普通選挙実現などを要求したり、1920 年に**日本で初めてのメーデーを主催**したりします。

日本労働総同盟は、それまでの**労使協調主義から階級闘争主義へ**と舵を切っていきます。その結果、後には左派系の日本労働組合評議会と右派系の日本労働総同盟に分かれることになります。

<無産政党の流れ>

農民労働党 → 労働農民党 → 左派労働農民党、中間派日本労農党、右派社会民衆党
1925 年 1926 年

農民労働党は浅沼稻次郎委員長のもと、最初にできた無産政党ですが、治安警察法により即刻禁止されました。労働農民党は 1926 年に杉山元治郎委員長のもとで、初めてできた合法的な無産政党です。しかし、対立により中間派と右派が分派して3つに分かれていきました。

<共産党に関する流れ>

日本共産党 → 3・15事件 → 4・16事件
1922 年 1928 年 1929 年

1922 年に非合法下に結成されたのが日本共産党です。

1928 年に実施された**普通選挙による初めての総選挙**で、無産政党が躍進しました。その結果、田中義一内閣は**治安維持法の最高刑を死刑**にしたり、全国の警察に**特別高等警察**を設置したりするなど、警戒していきます。その結果、3・15事件では共産党員らが大量に検挙されました。翌年の4・16事件では党の幹部全員が逮捕され、壊滅的打撃を受けました。

< 恐慌の嵐 >

戦後恐慌

1920 年

→

震災恐慌

1923 年

→

金融恐慌

1927 年

→

昭和恐慌

1930 年

第一次大戦最中から続いた好景気は 1920 年頃から一気にしぼんでいきました。まもなく関東大震災が起き、さらに状況は悪化します。

1927 年、**震災手形**の処理をめぐる第一次若槻礼次郎内閣の**片岡直温大蔵大臣**の失言を契機に金融恐慌が発生します。政府は**鈴木商店**を緊急勅令で救済しようとしませんが、枢密院が拒否し、内閣は総辞職します。

続く田中義一内閣の**高橋是清大蔵大臣**は**モラトリアム**を発し、日本銀行による特別融資などで恐慌を鎮めました。

しかし、浜口雄幸内閣の**井上準之助大蔵大臣**は 1930 年 1 月、**金解禁**を断行します。これは、為替相場を安定させ貿易の振興を図るのが目的でしたが、**世界恐慌**とぶつかり、金が流出。アメリカ向け生糸輸出も激減し、農村も大打撃を受けることになってしまいました。これを昭和恐慌と言います。都市労働者は「**大学は出たけれど**」という流行語に見られるように、失業などで苦しむことになりましたが、農村の方が深刻な状況に陥ることになりました。特に、**欠食児童**や**女子の身売り**が続発するなど東北の農村を中心に困窮は著しくなりました。

その理由の 1 つが、都市の失業者が帰農したため、**農村で人口が過剰**になってしまったことでした。